

KTK ひゅうまん 京都

No. 540 2021年11月号

編集／京都障害児者の生活と権利を守る連絡会 〒603-8324 京都市北区北野紅梅町85 弥生マンション内
編集発行責任者／池添 素 電話&FAX(075)465-4310 購読料 1部80円 年間購読料1,000円(送料実費)

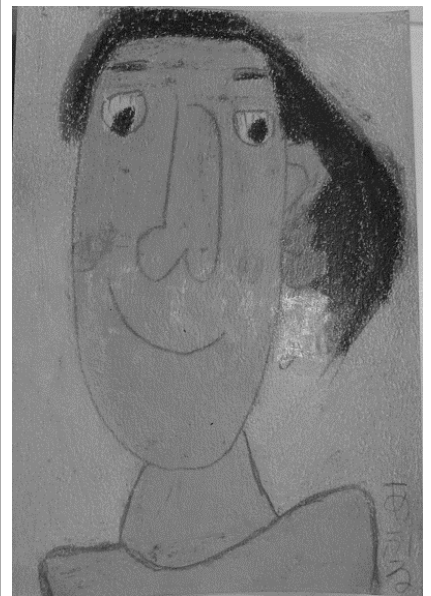
- P1 左大文字 つどめ
- P2 常任委員会から 池添 素
- P3 障害のある人の暮らし 沖田友子
- P4 血の染みついたボタン 中村 暁
- P5 障害者と共に歩んだ京障連の50年 松本 美津男
- P6 戦いを終えて ライスチョウジョナ
- P7 つれづれあらぐさ 中山 恵美子
- P8 2+2=詩 富士一文
- P9 障害のある人の権利を守る北障連から 濱中 博
- P10 365歩のマーチ 安藤 史郎
- P11 知っ得情報 松本 美津男
- P12 暮らしの場の大切さ 大西里江

左大文字

「滞留感と高揚感」

介護の分野でいま一番の話題は「ヤングケアラー」▲この課題、障害児家族の中では古くからのテーマだった。私が長らく関わってきた障害児親の会では、みなが一様にきょうだいのことに関心を持っていて、それがいつも後回しになっていった。寂しい思いをさせてきたのではと思うと辛い▲親だけでない。きょうだいたちの葛藤も深い。俺はいつも二番目か、と叫ぶ声も聞かれた。一人だけで苦しむのはよそう、と半世紀以上も前に全国的なきょうだいの会が組織された▲きょうだいの会が結成されたちょうどその頃、日本で初めての介護実態調査(「居宅ねたきり老人実態調査」1968年)が行われたが、そこにもヤングケアラーの記録が残っていた。報告書には、20万人のねたきり老人の介護者のなかで、「孫」が2.9%とあった。息子は2.7%だったから、それ以上だ。今でいえばヤングケアラー、報告者は次のように警鐘を鳴らしていた。「ねたきり老人の存在が家族に暗い影を与えるとすればまず鋭敏にこれに影響されるのは人格形成期にある孫である」▲家族の多様化がすすみ、超少子化の時代になって、介護を担う子どもたちの存在がクローズアップされる。半世紀という時間がずっと滞留しているような感覚もあるのだが、議論の舞台は劇的に広がった。さあ、これから始まる新世代のムーブメント! という高揚感も惹起する。

つどめ



「アトリエで」
渡辺あふる

常任委員会から

〈この国の未来は〉

国会では、この国に暮らす国民の生活のことを考えてくれる人がいて、国民のことを考えてくれる人を選ぶ機会が選挙だとみんな思っていると考えていた私は大きな勘違いをしていたかも。今回の衆議院議員選挙の結果は、国会を利権のために使い、権力を握っている人だけが美味しい思いをして、国民の暮らしをどんどん追い詰めている政党と、その権力を批判しているふりをして、市民の暮らしをガタガタにして大きな顔をしている政党が議席を大幅に増やしました。民意を正確に反映しない選挙制度の不公平さにも腹が立ちますが、それにしても、どう考えても弱い立場の国民を助けたり、未来を担う子どもや若者にはやさしくない、高齢者なんかも

うじやまとしか思っていない政党になぜ大切な一票を投じるのか、首をかき上げる結果とともに、101代目の首相が誕生しました。この政権は憲法の改正を本気でやると言い放っています

力を増しました。もう本当に怖いところに、国民自身が進めようとしています。どうすれば、安心して子どもも高齢者も障害者も、命あるものすべてが命を脅かされずに生きることができるとこの国にできるのか、真剣に真剣に議論するとき。

〈良い戦争はない〉

り人生には終わりがあり、スタートからゴールまでどう生きるのかが大切だと教えてもらったように思います。寂庵は嗟嘆野にありませんでしたが、このことがあり、何度も前を通りましました。もちろんご本人に会うことはありませんでしたが、この中に暮らしがあるのだと思うと、少し近い感じがしました。戦争を生き抜き、平和を切望する人たちの人数がどんどん少なくなってきました。そのうえ、危惧する戦争に向かうことを是とする国民の数が増えています。戦争に向かうことを否とする人たちの数を増やすのは、今まだ生きている人の仕事です。

〈これはおかしい〉

からシングルで4人の子どもを育てる原告の山田さんは、「夫婦の場合はいずれかが障害基礎年金を受給していても、もう一方が児童扶養手当を受け取ることができない」と訴えます。ひとり親の場合、障害基礎年金等公的給付と児童扶養手当との併給が認められない、というのがその理由です。当時の制度は明らかに平等原則を定めた憲法14条や生存権を保障する25条に違反するものです。障害がある、ひとり親、女性という3重の苦労は三倍の困難となり、厳しい生活を強いられます。表面に出ていないであろう、たくさんのおじ苦労を抱える人たちにも光が当たると、この裁判を応援していきたいと思えます。

池添素(京障連事務局長)

障害のある人の暮らし

誰とどこに住むか選択できる権利を！

沖田友子

息子が入居するグループホームから見えてくるもの⑤

ひと月はあつという間で、グループホームの日常で起きた二つの出来事。

一つ目は夕食について。業者が決めた献立に応じて食材をその日にホームへ配達、調理員が作るという夕食が、突然「食の安全安心」「食の楽しみ」を大切に職員間で話し合った結果、昼食と同じ弁当屋の弁当にするというプリントが配布された。食材量が少なく、ボリウムにかける、取り合わせが家庭料理らしくないなどが理由だという。食事に

は〇〇から食べました」など否定する内容は見当たらなかった。容器に入ったお弁当を昼も

夜も食べるということを考えると胸が痛む。おいしそうなおいしがリビングに漂ってきて、「お

いしそうな匂いやな、今日は何のおかずかな？」とイメージするのにも食事の楽しみの一つ。毎月昼食のお弁当のメニュー内容を見ていると、同じおかずが重ならないよう工夫されていると思うが、できれば目の前でホームの職員が仲間の顔を思い浮かべながら調理してくれた食事に勝るものはないだろう。二つ目は衣替えのこと。今年



なれば衣替えをすると書いて貼っておきます」寒さはその年によっても違うだろうし、ひとそれぞれ体感温度も違う。誰かの衣替えをしたのなら、自分の担当以外でもどうなっているのかと職員間で共有してほしい。

言葉で表現することができない障害のある人の生活を支えるということは、その利用者をどれだけ知り、何を欲しているか想像できること。職員一人だけの力ではできないことも集団の力があれば大きな力と自信になるはず。いつまでも家族が見に行くことはできません。家族も安心して職員さんにお任せしたいと思うからこそ、今日も嫌な思いをされるかもしれないと思いつつ伝えるしかないので。どうかよろしくお願いします。前号で最後に触れた「くらしの場を考える会」については次号以降で執筆します。

障害者と共に歩んだ京障連の50年（11）

京障連代表委員 松本 美津男

情報発信にも努力

NPO法人・京都コミュニ

1日学生無年金障害者京都訴訟
地裁判決を前にした1カ月間

ティ放送の番組会員として2年

は、障害者自立支援法の問題と
2005年前後から幅広い連携
による運動を始めました。

間、池添事務局長がパーソナリ

障害者自立支援法が制定される
ときから、京障連が事務局の役割

ティをつとめ（ラジオひゅうま

2002年10月ホームページ

をはたして、「障害者自立支援法

ん京都）を提供しました。月1

「ひゅうまん京都」を開設し当

に異議あり！『応益負担』に反対

回FMの（ラジオひゅうまん京

初はほぼ毎日更新していました

する実行委員会」を結成し、この

都）を放送し、2005年5月

が、現在は機関誌掲載にとどま

つており更なる努力が必要にな

実行委員会主催で、2017年ま



障害者自立支援法案に異議あり
これを福祉と呼べるのか？！
1ヶ月2～3万円もの負担増を強いる

「応益負担」に反対する大集会

■日時：5月22日（日）午後2時～4時30分（開場1時）

■会場：京都テルサホール

■主催：障害者自立支援法案に異議あり！
『応益負担』に反対する大集会実行委員会（略）

■内容：

- ①13:00～13:30 第3回実行委員会
- ②13:00～13:45 「ラジオマラソンスピーチ31」放送（会場に流れています）
- ③13:50～14:00 中島光一ミニライブ
- ④14:00～14:03 開会（国会 池添典・京障連事務局長）
- ⑤14:03～14:08 主催者挨拶（中島雄・京都府福祉推進課長）
- ⑥14:08～15:30 聞いて、聴いて！私の意見（1人5分）（休憩あり）
- ⑦15:30～16:00 対談「改めて『法案』の中身を聞いてみる」
鎌倉孝・立命館大学教授VS鈴木裕・摂生大学教授
- ⑧16:00～16:20 対話「国会議員から、そして国会へ」
- ⑨16:20～16:25 決議
- ⑩16:25～16:30 閉会挨拶（平野豊治・日本てんかん協会副会長）

●「聞いて！聴いて！私のねがい」にあなたの意見をお書きください。
●私たちの声を国会に届けるためのカンパにご協力ください。

っています。

視覚障害の人にも機関誌を

んでもらおうと朗読ボランティア

の協力を得てCD版を発行し

好評を得ています。

より幅広い連携で運動推進

2005年前後から幅広い連携

による運動を始めました。

障害者自立支援法が制定される

ときから、京障連が事務局の役割

をはたして、「障害者自立支援法

に異議あり！『応益負担』に反対

する実行委員会」を結成し、この

つており更なる努力が必要にな

で毎年4月と10月の節目の月に

は講演会、集会、パレード、セミ

ナーなどを行ってきました。

障害者自立支援法の応益負担反

対の歴史的運動は京都でも大きな

注目を浴び、2006年のメーデ

ーでは初めて京障連に訴えの場が

提供されました。

2008年に行われた「障害者

権利条約の批准を求める京都フォ

ーラム開催へ向けた勉強会」に参

加した諸団体のつながりをもとに

して生まれた「障害者権利条約の

批准と完全実施をめざす京都実行

委員会」に参加し、2009年か

らほぼ2カ月に1回開催される実

行委員会、そして2013年から、

毎年開催される京都デザインフォ

ーラムに参加しています。

ただ、残念なのは新型コロナウイルスの影

響で2020年は実行委員会もデ

ザインフォーラムも開催されない

状態が続きました。

戦いを終えて

ライスチヨウジヨナ

今年の3月に裁判を終え、その結果は一部勝訴ということになったとは以前ご報告させていただきました。

しかしその後、「結局リフト機能に係る金額はいくらなの？」

という問題が起こり、京都市との間に再びトラブルが発生してしまいました。こちらは、リフト機能は約11万円かかるという理解で、実際に自己負担として既にその金額を支払い済みであるのにも関わらず、京都市は「リフト機能は約1万円」という見解を示していたのです。その誤

解を解こうと京都市には何度も話し合いの場を設けてもらうよう交渉しましたが、京都市はそれを拒否。このまま話し合いの場すら設けてくれないのであれ

ば、また裁判をしないといけないとまで考えていました。しかし、人事異動などがあったためかどうかはわかりませんが、年度が変わった途端、急に京都市の態度がガラリと変わり、話し

合いの場を設けてもらうことになったのです。その後の京都市の対応も割と柔軟で、リフト機能に係る11万円も支給されることとなりました。このように、裁判後にも大きな困難が立ち回

りだかかっていましたが、無事一件落着となったことでホッとして



チームワークがいかに大切かを学びました。私にとっては、たくさんの方々に単に協力していただいたというより、それぞれの信念を持った方々と一緒になって、そのチームワークによって乗り越えられたという感覚です。今までご協力いただいた弁護士の方、生方、車椅子を製作していただいた先生方、意見書を書いていただいた大学教授の皆様、そして傍聴にいつも来ていただいた皆様、常に応援してくださっていた多くの方々

に改めて感謝申し上げます。さて、これからこの『ひゅうまん京都』にはなにを書けばいいの
か!? 正直ネタ切れのような気がします
ですが、何か面白いことを書いていこうと思えますので、またよろしく願います。

つれづれあらぐさ

あらぐさ福祉会は長岡京市にある社会福祉法人で、障害のある人たちの暮らしを支える事業を行っています。1986年に無認可の共同作業所を開所して以降、日中の通所から生活の場、ヘルパー事業所等、地域で暮らし続けるために必要なものを作り出してきました。今回の連載開始にあたり、「障害者の喜びと悲しみ、家族の喜びと苦悩、職員の働き甲斐と先が見えない苦悩…そういうことが浮き彫りになればと思います」とお話をいただきました。日々自分が経験していることや感じていることを通して、それぞれの一場面を綴れたらと思います。なお、内容については個人情報に配慮して構成しています。

場面② 朝の情報番組で、

選挙の結果を一緒に見る

10月31日に、第49回衆議院議員総選挙が行われました。予定の把握が得意な彼は、選挙があると決まってから「31日は選挙あるなあ」と毎日話していました。日が近づいてくると、「日曜日は投票ですよ」「僕はね、近くの小学校（投票所）行くから」と、会話が続きます。「うちは期日前投票しました」と返すと、「期日前？」「もう投票したん?!」と少しびっくりした様子。選挙のことが自然に会話の話題となるのが、自分にとって新鮮でした。

離れて暮らしているご兄弟から、「選挙の投票ハガキが来ますが、弟は選挙に行くのでしょうか?」と、問い合わせがあった人もいました。

連絡をもらって初めて、「そういえば、これまでどうしてたんやろ」と、はっとしました。ご本人に尋ねたところ、「行く」「一人で行ける」の返事。投票所の場所（彼の母校でした）を確認して、困った時は係の人に聞くことを伝えました。

選挙の翌日に訪問すると彼はテレビの前に座っていて、「選挙行ってきた」の報告がありました。「そうなんや、行けたんやね」と伝えると、「うまくいった」「ここ入れてん」と選挙結果が映し出された画面を指さしながら話し始めました。一緒にテレビを見ながら、小選挙区・比例代表の投票と最高裁判所裁判官国民審査

を、彼はどうやったのかなあと思いました。

以前、「いっつも腹たつんやけど、なんで国はこの人たちのこと後回しなの? 声をあげてないから?」と、長年お世話になっているボランティアさんに聞かれたことがあります。また、ワクチン接種に関しては「なんで障害者（分野）は遅いの?」と、疑問を口にされました。その時は、「声をあげてないわけではないけど、届きにくいというか…足りないんですかね」と、答えるのがやっとでした。

無認可の頃、「重度の障害があっても投票できるような仕組みになるよ、本人と一緒に白票を出しに行っている」と言われたご家族がいました。その言葉を思い出しつつ、投票に行くとき意気込んだり張り切って報告したりする彼らの姿に、選挙の意味と投票のあり方を考えさせられた今回でした。



中山 恵美子（あらぐさ福祉会）

2+2=詩

「小鬼のうた赤青黒の」

怒りんぼの小鬼が一匹。

ぷりぷりと腹を立てている。

ああ、腹が立つ。イライラするぞ。ムカムカするぞ。

あれもこれも腹が立つ。

かっかかっかと怒ってる。

ほらほら、あんまり怒っているから顔も体も真っ赤っか。

恐がりんぼの小鬼が一匹。

自分を抱きしめぶるぶると震えている。

怖い怖いよ。怖いなあ。あれも怖いしこれも怖い。

がたがた震えて、情けない顔。

あらあら、あんなに怖がっているから顔も体も真っ青だ。

不平不満屋の小鬼が一匹。ぐちぐち文句を垂れている。

あれが不満だ。これが嫌いだ。見るもの聞くものすべてが嫌だ。

ぶつぶつぎやあぎやあ。出てくる言葉は毒まみれの棘まみれ。

へらへら笑いだけ張り付けた、顔も体も真っ黒小鬼。

彼はどこにいますのしょう。

きつとどこにでもいますのしょう。

ひとの心の中にいる、赤青黒の小鬼たち。

今日もどこかで騒いでる。

「空の水面」

秋の空を覆う一面の雲

その端っこ、山の上空にどろりとオレンジの夕暮れ留まり。

陽の光を映した水面のように赤い光を放っていた・

時計の針は6時を廻り、

空の泉から夕陽の色が抜けていく。

池に流れ込む土砂のように雲は押し寄せ、

水底から舞い上がる泥のように闇が沸き上がり、

夜の色が混ざっていく。

気づいたときには

夕暮れ溜まりは幻のように消え失せて。

夜闇が染みた雲の中、

ぽかりと開いた穴のように

黒い空が溜まっていた。



障害のある人の
権利を守る 北障連から
濱中博

◇講演 西邑 章氏

(丹後保健所福祉室
精神保健福祉相談員) 副室長

◇報告 白須 宗明氏

(若者自立支援ボランティア)「たんぼぼ」代表

◇西邑さんのお話(15分)

「リーメンテック」を使い仕事を始めようと思
ます。 肯定的な言葉、大切ですよ。

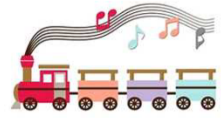
話が分かりやすく、内容が良
く理解できました。と同時に
もっと早くこの正しい知識が
あればと思いました。

各時期での対応の仕方もある
り、人によって時期は異なる
とは思いますが、焦らずゆっ
くりと本人家族を支えていく
必要性を感じました。

まずは、家に帰ってから「
メッセージ」を使うことを始
めようと思います。肯定的な
言葉、大切ですよ。

もっと時間を取ってお聞きしたい話でした！

とても分かりや
すいお話しして
た。もっと時間を
取ってお聞きした
い話でした。相談



支援の仕事をしているので
が、日々の仕事に役立つば
かりでした。西邑さんの話には、
何時も元気をもらっています。

「変わらない利用者の周りに
は、変わらない支援者がい
る！」という言葉にドキッ
としました。

私の子どもの友達にも、引
きこもりの子が数名います。
家族(特に母)は本当に参って
おられ、相談されることもあ
ります。今回の講演会で、聞
いた内容を伝え、私も正しい
知識や情報を収集し、悩んで
おられる方の助けが少しでも
出来ればと思いました。

◇白須さんのお報告(15分)

・設立の主旨は十分に理解で
き、大いに賛同する所であり、
組織として発展し、安定した

活動が続けられるようにと思
いました。

・頑張ってほしい。いろんな
組織とのネットワークが必要
だと感じました。人間支援ネ
ットワークというような・
・大切な事業だと思っています。

とても熱意が伝わってきました。
た。行政と一緒にするお仕事
だと思えます。内容の具体的
な中身についてももう少し聞き
たかったです。

・先生方がこのような取り組
みをされていることを初めて
知りました。その熱意に頭が
下がる思いです。

・表に出にくい引きこもりが、
身近かな問題になっていてこ
とを切実に感じました。何か
協力できることがあれば考え
たい。

・与謝野町に住んでいながら、
「たんぼぼ」という団体があ
る事を知りませんでした。子
どもだけでなく、大人の支援、
家族の支援も大切だと感じま
した。

・地域の中にこんなにも沢山
ボランティアで、子どもや若

者の支援に関わっている人が
いるのだと思いました。支援
学校も是非連携して活動から
学ばせていただきたいと思います。
もう少し具体的な実践の話で
聞きたかったです。

事務局員の浦島清一さんの「青年たち
の悩みと共に生きて」という小冊子に、具
体的な実践や活動の一端が載せられていま
す。寄る添う実践について何を大切にす
るのか等・・・じっくりと聞きたい内容で
した。続編を計画します。

2020年度 学校不登校
生徒は前年度の8,2パーセ
ント増の19万6127人、
児童生徒の自殺者数415人
で過去最多。また、推定「引
きこもり」15歳から39歳
で54.1万人、40歳から
64歳で61.3万人 併せ
て、115.4万人・・・
成果を求められ、自己責任を
負わせられる社会の中で子供
たちや青年や成人が傷つき病
んでいる
新自由主義の中での呻き声
が聞こえる。

365歩のマーチ



20 オデカケ

10月のある日、家族でお出かけをしました。「ロナもあつたり、休みの日には父母は別行動でゆいちゃんはおちろかについで行ったり…とどうこともあつたので、3人でお出かけは時折外出をすることをのぞけばかなり久しぶりのできごとでした。どこに行くか、なかなか決まらなかつた(直前になるまで考えようともしない)のですが、ゆいちゃんが動物も好きとついで、京都からあまり遠くない兵庫県の六甲牧場に行くことにしました。

おでかけ当日、朝からゆいちゃんには動物に会いに行く気満々。以前買ってもらった自分のリュックを持って行くかと訴え、「スベビー

カー、のらない!」と自分の足でたくましく出かけました(現地では抱っこばかり、とても大変でした)。牧場に着くまでの道中、「ゆいちゃん、何見たい?」と聞くと「ひっじゅん!」と期待に胸が膨らみます。高速道路に乗り、大きく道を間違えるタイムロスがありながらもようやく到着しました。

大自然のなかにある六甲牧場。ゲートをくぐると、出会ったことを心待ちにしていたひじゅんがたくさん。お話を聞くと、だいたいゆいちゃんを見てみると…かわいらしい絵本に出てくるようなひじゅんではなく、く、く、く、思ったより大きなリアルなひじゅんに目は点になり、母に抱っこをせがんでいました。ちょっとエサが

売っていたので、購入し母がエサをやるよ、そこいらにいたひじゅんが群がってきて勢いよくむしゃむしゃ。ゆいちゃんはエサをやるどころではありませんでした。その後、「ご機嫌で半日、うさぎや牛、シーブドッグ(牧場でひじゅんを追いかける犬)などを見て満喫しました。

そろそろ帰ろうかな…と思っていると、「ひっじゅん、ちゃんちよんしたい」と言い出すゆいちゃん。そこらじゅうに居るひじゅんを父の抱っこで近づくと…おそろおそろちゃんちゃん、と触り、さわれたー」といった表情でした。その後は、抱っこから降りるのはまだ怖いですが、抱っこで「ひっじゅんちゃんちゃん」をひたすららららかえました。朝一番で出会った時から、どきどきしながらも触ってみたいなあ、と思っていたのですね。家に帰ってから、「今日は何見たの?」と聞くと、「しまつまさん!」とつれづれに教えて

れました。…ん??

*

夜ごはんを食べている時に「カースのかばん、ほしい。〇〇くんのカースのかばん、ほしい」と言ったり、「きょう、ホールで、お祭りさんごっこした」とうれしそうに話してくれるなど、今この場だけではないことにも思いを馳せて話をしてくれるようになりました。そんな力がふくらんできたからか、父が保育園にお迎えにいくと「かはお仕事?」と何度も聞くなど目の前にならないことが気になつて仕方がなくなってきました。そんなある晩、テレビを観ながららんらんしている母のおなかを触りながら「なにはらららんのっぴーん!」。世の中不思議でいっぱい、いろいろなことを聞いてたしかめたいゆいちゃんです。

中野 睦太郎(あかひつひのぼん)(園)

知っ得情報

無料で利用できる産業保健サービス

松本 美津男

50人未満の事業場とそこで働く労働者を対象に地域産業保健センターが次のような産業保健サービスを無料で実施していますので簡単に紹介します。

〈内容〉

- 脳・心臓疾患のリスクが高い労働者に対する健康相談・保健指導
- メンタル不調の労働者に対する相談・指導
- 健康診断の結果に基づく医師からの意見聴取
- 長時間労働者に対する医師による面接指導
- 高ストレス者の面接指導
- 個別訪問による産業保健指導

〈問い合わせ先〉 ※産業保健センターを(産)と省略

- 上地域(産) TEL: 075-468-1144 FAX: 075-468-1442
管轄: 上京区・中京区・左京区・北区・右京区・西京区
- 下地域(産) TEL: 075-468-1144 FAX: 075-468-1442
管轄: 下京区・南区・東山区・山科区・長岡京市・向日市・乙訓郡
- 南地域(産) TEL: 075-468-1144 FAX: 075-468-1442
管轄: 伏見区・宇治市・城陽市・八幡市・京田辺市・木津川市・久世郡・綴喜郡・相楽郡
- 中丹地域(産) TEL: 0773-24-1055
管轄: 福知山市・綾部市
- 舞鶴地域(産) TEL: 0773-77-5755



あなたもぜひ 仲間に

サロン・サークル・地域活動展開中
生活支援スタッフ(資格不要)募集中
介護職員(資格要)募集中

ひとりぼっちの高齢者をなくそう
元気な高齢者はもっと元気に

「よろず相談」承ります(随時)



あなたも支える存在に

京都市北区紫野東野町1-5
電話075-432-3636

命の平等をかけた、 無差別平等の医療と 福祉の実現をめざす

働くひとびとの医療機関です

看護師・薬剤師・医師や医療技術者を

目指す方をご紹介ください



京都民主医療機関連合会

〒615-0004 京都市右京区西院下花田町21-3 春日ビル4階

TEL 075-314-5011(代) FAX 075-314-5017

Home Page <http://www.kyoto-min-iren.org>

e-mail: info@kyoto-min-iren.org

ありがとうございます

分担金 京都市職労民生支部・京都北部障害者問題連絡会

年会費 一谷孝・大西洋子・塚本浩子・中井美智子・三宅善昭・京都北部障害者問題連絡会・
瀧本正史

寄付 井上吉郎

(敬称略 2021.11.10)



暮らしの場の大切さ

大西 里江



これからのテーマと思います。

昨年からのコロナ禍。

刻々と時間は流れてもう二年も、制限される生活。

今でも、入院、入所している家族と直接会うことが許されない。

会えない中、どうしたら家族を守れるか？

昨夏の母親の子殺害。

彼女も、将来の生きる安心が欲しかった。

それが叶わない現実で失望して、

生きていくことを諦める選択をしたのでしょ。

老若男女、障がいの有無に関係なく、このコロナ禍で、それぞれが安心して暮らしていける場所を模索している。

コロナ内服薬の治療薬が広がるまで、安心して暮らせない。

その後も、生活、経済の状態がどうなっていくのか？

このコロナ禍で分かったこと。

弱者と言われる人は、一番最初に安心が消える。

守るべき人なのに守れない。

守るには、落ち着いて暮らしていける場がある。

特に老障介護。

親が高齢者で大変な身体になっても、障がい者の子供の介護をしている。

共倒れする前に、子だけでなく、親も自分の人生があり、

安心して生きていけるようにと、暮らしの場について考えて、

10年前頃から、暮らしの場の活動をされていたと聞く。

重心の親でもある私は、常に子と寄り添うことが、

親として当たり前と思っていた。

子が成人しているのに、障がいがあると子を成人しているという認識が低い。

いつまでも、私が看ないといけないと思っていた。

私の人生は、この子と共にいつまでも、ではない！

私がいなくなったら路頭に迷うのは、子である、

子は、子の人生があり、親がいつまでも一緒にいけない。

家系重視の社会。

介護は、家族依存の構造。

家族だけではなく、家族に変わる支援者が親亡き後、絶対必要である。

選択出来る、安心して暮らせる場所を、提供出来るように、

家族だけではなく、社会が支える構造にという、暮らしの場の活動に考えさせてもらった。

それぞれの家庭で、それぞれの個人の人生として、

将来の暮らしを考えていけるように。

今、出来ること、多くの方と一緒に考えていけたらいいなあと思っています。

